



社会人基礎力

「学校って、何のためにあるんだろう」

人生の中で誰もが一度は考えることではないでしょうか。

私は、「学校は、子供が将来社会に出た時に、幸せに生きていけるようにするための準備をする場所」だと思っています。学校で、よりよい社会人になるための基礎的な力を身に付けるのです。

では、よりよい社会人になるための基礎的な力とは、具体的にどんな力なのでしょう。経済産業省が出している「社会人基礎力」は、次の3つの力です。

●前に踏み出す力（一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む力）

「主体性」「実行力」「働きかけ力」

●考え抜く力（疑問を持ち、考え抜く力）

「課題発見力」「計画力」「創造力」

●チームで働く力（多様な人々とともに、目標に向けて協力する力）

「発信力」「傾聴力」「柔軟性」「状況把握力」「規律性」「ストレスコントロール力」

私は、社会に出て幸せに生きていくためには、「人から信用される」ことがとても重要だと思います。信用がなかったら、仕事もお客さんも友達も、そして自分を成長させるチャンスも逃げてしまいます。上の「社会人基礎力」はどれも、人から信用されるために必要な力とも言えそうです。

学校は、子供が将来社会に出た時に、幸せに生きていけるようにするための準備をしています。ですから、子供たちは毎日、人から信用されるための振る舞い方を学んでいます。例えば「ルールを守る」「うそをつかない」「約束を守る」「人に迷惑をかけたり、不快な気持ちにさせたりしない」「礼儀正しくする」「困っている人に優しくする」「人の役に立つ」・・・まだまだあります。日常的に指導されているこれらのことは、子供たちの将来につながるのです。

今、社会の在り方が劇的に変わる Society5.0 の時代、変動性、不確実性、複雑性、曖昧性の頭文字をとった VUCA の時代が到来したと言われています。子供たちが社会に出る十数年後は、これらがさらに色濃くなることでしょう。AI やロボットに関する技術活用が今より進んでいることも想像できます。今の日本の労働人口の49%がAIやロボット等で代替できるようになる可能性が高いと言われています。

時代が劇的に変わったとしても「社会人基礎力のある人」「人から信用される人」になることは、幸せに生きることにつながります。子供たちには、小学校時代にしっかり学んで身に付けてほしいと思っています。

2年 町探検

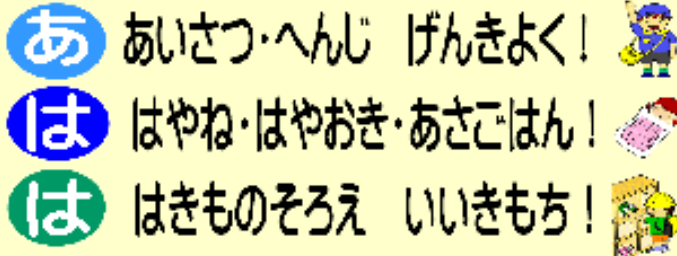


基本的生活習慣を

「小さい頃によい習慣を身につけさせたい」

幼少期は、一生の中でも吸収力に恵まれている時代です。「習慣は第二の天性」ともいわれますが、ぜひ、目の前の子供に、よい習慣を身につけさせたいものです。

長崎っ子の約束 「あ・は・は」運動



左は長崎っ子の約束「あ・は・は運動」、子供に身につけさせたい基本的生活習慣（『将来の根っことなる力』）です。

森信三という明治生まれの有名な教育学者がいます。この先生が示された子供の家庭での大事なしつけは、以下のようなことです。

第一は、「毎朝親に対してあいさつができる」

第二は、「親から呼ばれたら、必ずハイという返事ができる。」

第三は、「席を立ったら、イスを必ずキッチンと中へ入れておく。はき物を脱いだら、必ず揃える。」

これらは、「人間としての軌道」とも言えるものです。・・・

昔から、同じようなことが言われてきています。大切にしたい、子供たちの基本的生活習慣です。



6月5日、3年生と6年生がホタルの学習で交流しました。伊良林小学校ではなぜ長い間ホタルの飼育を続けているのか考えました。地域のホタルの会の方々にも参加していただきました。